

# 賃上げ・フィリピン、そして

すっかり暖かくなり、四月上旬を思わせる陽の強さです。単価もほぼ八千五百円が定着してきたものの、仕事が減るのもまた例年通り(??)、けっして「春、本番」だけですませられない釜の今です。

「今日は昼の二時頃、センターをウロウロしてたら、食い抜きで七千円という飯場の仕事を二三人から声かけられた。」

「まだまだ、捨てたもんところがうということかい。」

「そういえば三角公園の横にも中山なんかのクルマが停っているの、話をまいてたら、公園でも手配してる感じやった。」

「これはえらい古いことが復活したことになるで。」

「まあ、今はええけど二十日すぎたら仕事は減りだすんところがうかい。」

「八千五百円いづ、賃上げもええ。」

えけど、それより八千円でも仕事のある方がええと思うし。

「単価が下っても仕事は出んで仕事、ことに公共工事のあるなしは受注・発注、予算執行の問題やから単価がちよっとやそつと変動しても関係ないで。」

「八千五百円も今だけとちがうかな、段々安うなるで。」

「交通費がつかんようになったんはもう二三年になるな。」

「まだくれるところもあるで。」

「ドヤ代も上ってるし、安いキヨタキなんかは予約ばかりや飯場に行ってる人も多い。」

「まずイ千ゲンはあかんから結

局高いドヤに泊ってしまうな。」

「まあ、たしかに五百円くらいの賃上げでは、というのはあるやろうけど、いろんなものを取りもととしていくのは、賃上げしかないと用いづ。」

「人から聞いた話やけど、何人かで仕事にいったんやけど朝昏なの賃金をまかされたんでさつ、とそれらを配ったんや、そうしたら他の連中がトンコしてしまいよったんや、五日間かかってそのトンコの分を働いたそうやけど、どんなモンかな。」

「まず、責任とかなんとかは関係ないと思う、みんなトンコしたんやったら、その人もさつやとトンコしたらよかったのに。」

「トンコするにしろ、ヤめるに

しろ、セコイ話やな、マルコスの子の托田を見てみいな。」

「まったくアホらしなる、だいたい援助のリベートさもうけよったんやろ。」

「日本の場合、マルコス時代に四千五百億円も援助しているし、こんどもアキ/になったいうて五百億円も援助している。」

「援助はすべて現物やけど全部商社を通してから、ロンハネが出てくるわけや。」

「だいたい二の兆(しるし)というのはフィリピンの国家予算よりも多いらしいで。」

「一方、フィリピンのスラムはひどいらしいな。」

「空岳の処理なんかで食ってららしい。」

「ロンハネの構造がかめらんと問題はいつまでも続くわけや。」